

## HEART NEWS

大阪市立総合医療センター循環器センター



Vol. 22



『おお、言葉の書き手よ。君は全ての配置を、この素描ほど完全に描写する言葉を見つけ出せるだろうか？ 真の知識を持たざるがゆえに、君の叙述は混乱に陥るだろうし、事物の真の形について、わずかな知識しか伝えることが出来ないだろう。』

レオナルド・ダ・ヴィンチの解剖手稿から

## ハートニュース Vol. 22 巻頭言

朝夕の寒気が身にしみるころとなりましたが、皆様にはますますご清栄の事とお喜び申し上げます。先日、当院さくらホールで開催いたしました第18回心臓病懇話会には、多くの先生方にご出席頂き、誠にありがとうございました。

今回のハートニュースは、心臓病懇話会の講演の中から、循環器内科「皮下植込み型除細動器と植込み型心電計」について、心臓血管外科「急性大動脈症候群に対する取り組み」についてご報告させていただきます。

今後も循環器内科、心臓血管外科一丸となって皆様のご要望に迅速・確実に応えられるよう取り組んで参りますのでよろしくお願い致します。

大阪市立総合医療センター

循環器センター長・循環器内科部長 成子 隆彦

# 皮下植込み型除細動器と植込み型心電計

循環器内科医長 占野 賢司

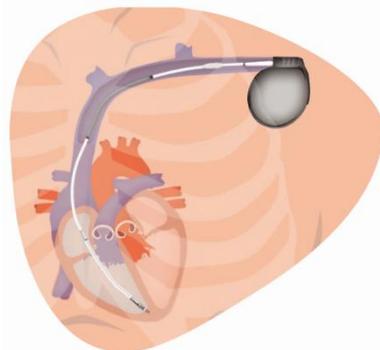
今回は不整脈診療において新しく登場した2つの医療機器をご紹介します。

一つは皮下植込み型除細動器です。従来はペースメーカーと同様に経静脈的にリードを右室に留置するものでした(右上段)。頻度は低いものの手術時における心穿孔などの合併症、感染時の心内膜炎やその際に必須となるリード除去における心タンポナーデのリスクなどがありました。

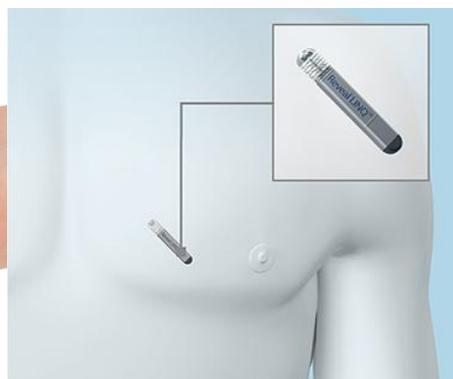
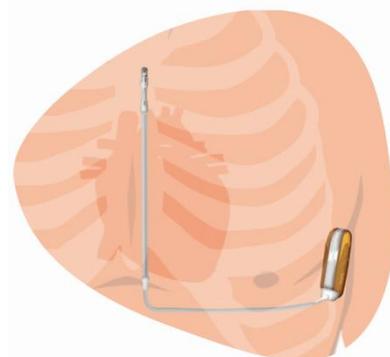
今年新しく登場したのが、皮下植込み型除細動器(右下段)です。リード、本体ともに皮下に植込むため植込み時の心合併症がなく、仮に感染しても心内膜炎やデバイス除去時のリスクが少ないというメリットがあります。今後、徐々に皮下植込み型除細動器の割合が増加することが予想されます。

もう一つは植込み型心電計です。原因不明の失神や潜在性脳梗塞(心房細動を検出するため)などで適応となります。以前からこのデバイスはありましたが、サイズが87%も縮小し、植込み自体も非常に簡便になっており、患者さんにも受け入れられやすくなっています。

経静脈植込み型除細動器



皮下植込み型除細動器



## 循環器内科外来担当医のご案内

	月	火	水	木	金
午前	阿部	松村	占野	紙森	成子
午後	阿部	松村	吉山	紙森	成子
	ペースメーカー外来				

### 地域初診外来

	月	火	水	木	金
午前	成子		松本	成子	阿部
午後			占野(不整脈)		

# 急性大動脈症候群に対する取り組み

心臓血管外科医長 尾藤 康行

急性大動脈症候群とは大動脈解離、大動脈瘤破裂、切迫破裂等の生命を脅かす緊急疾患群の呼称であり、救命のためには迅速な診断と治療が必要です。救命率の向上には発症から治療開始までの時間が重要な要素となるため、当循環器センターでは関連部門と連携し、依頼があった場合は即時対応する体制を整えております。

先日老健施設に入所中であった94歳の女性がStanford A型大動脈解離を発症し、救急搬送されました。上行から弓部大動脈壁に解離を有するStanford A型大動脈解離においては、原則として外科的人工血管置換術が必要であり、エントリー（解離を来す原因となる内膜の亀裂）が弓部大動脈にあったため（図1）、超高齢ではありましたが上行弓部大動脈の人工血管置換術を緊急手術にて施行しました（図2）。術後経過は極めて良好であり、術後2日目には抜管してICUを退室し、その翌日には食事を開始され、合併なく術後14日で紹介元の施設へ退院となりました（図3）。高齢化社会に伴い、超高齢者の手術適応をどこまで拡大するかということが問題となっておりますが、当院では年齢だけにとらわれることなく積極的救命に努めております。

また、大動脈治療には近年ステントグラフトをはじめとした様々な新しい治療デバイスが導入され、大動脈解離だけでなく大動脈瘤破裂など従来では救命困難であった症例に対する治療成績も向上しております。当院では外科的手術、ステントグラフト治療のいずれにも即時対応可能であり、今後も地域の公的基幹病院としての責務を果たすべく緊急症例の受け入れに努めてまいります。

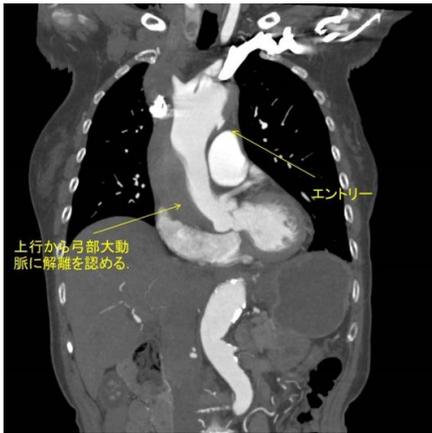


図 1

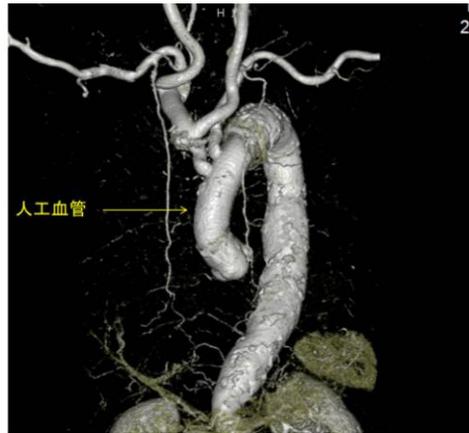


図 2



図 3

## 心臓血管外科外来担当医のご案内

	月	火	水	木	金
午前	末廣	佐々木	賀来	佐々木	尾藤
午後	末廣	佐々木	賀来	佐々木	尾藤

診察予約(地域医療連携室)

TEL:06-6929-3643 FAX:06-6929-0886

平 日 8:45~20:00

# 今号の循環器日記

我々、循環器センターでは、臨床・教育・研究の3つのいずれもが欠けることのないように力を入れております。国内学会をはじめ国際学会でも発表を行ったり、また、教育プログラムの運営を行ったりしています。

左上の写真は、9月に東京で開催された日本心臓病学会学術集会において松下医師（中央）がたこつぼ型心筋症についての発表をした直後に撮影したものです。

右上の写真は10月に札幌で開催された第7回日本心臓弁膜症学会のホームページから引用したものです。阿部医師および赤松医師、山根医師が参加してまいりました。経カテーテル的大動脈弁植込術（TAVI）のみならず経カテーテル的僧帽弁形成術デバイスや低侵襲手術、ロボット手術など『より低侵襲に！』という波が内科外科の双方に押し寄せてきています。当院でもその波を遅れずに捉え、患者さんのお役に立てるよう努力してまいります。

下の写真は10月に阿部医師が東京ベイ市川浦安医療センターの渡辺弘之先生と共同で開催した「東京ハートラボ秋季キャンプ@大阪」の記念写真です。

全国から熱心な医師・技師・コメディカルの皆様に参加していただき、ウエットラボやさくらホールでの心エコーハンズオン、症例ワークショップで大変盛り上がりました。



当院循環器内科、心臓血管外科は近隣の先生方からの循環器救急疾患をさらに迅速に受けることができるようにするため、循環器センター直通電話（ハートライン）を設置しております。

**ハートライン（循環器センター直通電話）**

**06-7662-7979**

その他の場合は、御面倒ですが、

**06-6929-1221（病院代表）から呼び出して下さい。**